



《愛についての手紙》2022
Photo: Doug Eng
©] ASPAR, Tokyo, 2023 and Chiharu Shira

10000の 夢を描く

京都精華大学創立55周年記念 アセンブリーアワー講演会

現代美術家

塩田千春

聞き手

芸術学部教員、副学長

吉岡恵美子・生駒泰充・佐川晃司

芸術学部教員

芸術学部教員

2023.11.18(土) 14:00-15:30

会場 京都精華大学 or オンライン聴講 (要予約)

京都精華大学 学長室グループ 公開講座事務局 京都市左京区岩倉木野町137 ☎075-702-5263 garden@kyoto-seika.ac.jp

聴講を希望する方はどなたでも対面参加、もしくはオンライン参加いただけます。参加申し込みは「アセンブリーアワー講演会」のWebサイト(右のQRコード)にて受付けます。



1000の 夢を描く

2023.11.18(土) 14:00-15:30

会場 京都精華大学 or オンライン聴講 (要予約)

1996年に京都精華大学を卒業し、世界的に活躍する現代美術家の塩田千春さんをゲストに迎えます。この数年間、戦争やパンデミックなど、さまざまな「分断」や「死」が身近にあった時間を過ごしてきた私たちが、塩田さんのお話をお聞きして、共に考えたいと思います。

塩田千春

1972年大阪府生まれ。1996年京都精華大学美術学部（現芸術学部）卒業。ベルリン在住。大学卒業後、渡独。ブラウンシュヴァイク美術大学、ハンブルク造形美術大学、ベルリン芸術大学で学ぶ。過去に誰かが使っていたベッドや衣服、窓枠などを用いた大規模なインスタレーションで知られる。生と死という人間の根源的な問題に向き合い、場所やものに宿る記憶といった「不在の中の存在」を浮かび上がらせてきた。2001年、第1回横浜トリエンナーレに出品し、国内外で大きな注目を集める。以降、世界各国の美術館での展覧会や国際展に数多く参加。2015年には、第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館代表として選出。2019年に森美術館で開催された個展「魂がふるえる」は66万人以上の入場者を集め、その後、韓国、台湾、オーストラリアへ巡回した。近年の主な国内での個展に、「いのちのかたち」(2022、那覇文化芸術劇場なはーと／沖縄)、「塩田千春展：魂がふるえる」(2019、森美術館／東京)、「『胡蝶の夢』 Art for Tomorrow 2018 - 京都府新鋭選抜展」(2018、京都文化博物館／京都)など。



Chiharu Shiota
Berlin, 2023
Photo by Sunhi Mang

聞き手 芸術学部教員、副学長 芸術学部教員 芸術学部教員
吉岡恵美子・生駒泰充・佐川晃司



《愛についての手紙》(部分) 2022 Photo: Doug Eng ©JASPAR, Tokyo, 2023 and Chiharu Shiota

関連イベント

京都精華大学55周年記念展

FATHOM

— 塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン

2023.11.17(金) - 12.28(木)

会場 京都精華大学ギャラリー Terra-S

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
京都精華大学 明窓館3階

出品作家 塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン



※イベントの概要や時間などの詳細については、公式サイトでご確認ください。



金沢寿美《新聞紙のドロ잉》2022
森美術館



ソー・ソウエン《My body, your smell, and ours》
2020 撮影：野村如未 The Mass

塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエンは、世代は異なりますが、それぞれ京都精華大学の芸術学部や芸術研究科で洋画を専攻しました。現在は、ともに「絵画」の範疇を飛び出し、空間全体を作品とするインスタレーションや、場所の歴史や記憶をテーマにした作品、「自己とは何か」を自身の身体を投じて探るパフォーマンスなど、多岐にわたる表現領域で活動を展開しています。また、大学卒業後、ドイツに渡った塩田、在日韓国人三世として育った金沢、2020年にアーティストネームを改名したソーは、共通してアイデンティティについての問いを表現の核に据えて制作しています。さまざまな共通項を持つ彼・彼女らによる濃密なインスタレーションから繊細な平面作品までをとおして、それぞれが向き合ってきた問いや主題の「現在地」を体感していただけたらと思います。